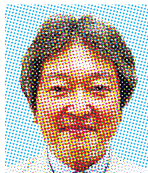


りんだん 佐賀



朝長 修さん

ともながクリニック院長

ともなが・おさむ 1960年生まれ。嬉野市(旧嬉野町)出身。鹿島高一長崎大医学部卒。1987年に東京女子医科大糖尿病センターに入局、専門医として特に糖尿病性腎症、腎不全の治療に従事する。2006年、ともながクリニック糖尿病生活習慣病センター(新宿区)を開設。東京女子医科大糖尿病センター非常勤講師。東京都。

鹿島高校の話題の続きです。高校の文化祭は赤門にちなんで赤門祭という名前です。同窓会の名称は城跡にある鹿島高校から鹿城会でした。東京でも鹿城会の活動は盛んです。毎年10月に、40歳の学年を幹事にして開催されます。

私が39歳の1999年秋、1年以上の先輩から「わいたちが来年の幹事やっけん引き継ぎばするけん出て来い」と呼び出されました。私と主だったメンバー数人で、初めて東京鹿城会に参加しました。100人を超える同窓生に、当時は現職国会議員が3人もおいでで、大変驚いたものでした。その後、先輩から校旗とかがきの山を預かり、持ち帰りました。いろいろ調べてみると、赤字ギリギリで、出欠は往復はがきを手分けして書くというものでした。「こりゃ、大変バイ、出席者は集めんぎ足の出るたい。案内状は千通以上も

鹿島高校出身者として②

出さんばならん」と途方に暮れました。

妙に結束の強かった我々の学年は、毎週土曜日午後新宿で集合する暗黙のルールが作られ、着々と準備を進めました。名簿をパソコン入力し、鹿城会初のIT化に向けて動き始めました。会場も個人的にコネのあった京王プラザホテルに変更、酒や食材も持ち込み、

土曜日に家を空けることは、一部の奥様から浮気を疑をかけられました。当然です。一度、配偶者も集めて飲み会を企画し、身の潔白を周知しました。

幹事担当をきつかけに同級生はさらに結束を強め、何かと理由があるたびに集まるようになりました。また東京鹿城会にはさまざま

リニクの待合室で、新宿御苑の桜を見ながら鹿島の酒をこれでもかというくらい消費します。ゴルフの同好会もあります。端から見るといつも同じメンツで飽きもせず、飲んでばかりで異様でしょう。しかし都会に出て来て苦労している田舎者が方言でくっちゃべるとリフレッシュできます。

そんな愛すべき鹿城会で、上京する人間が年々、減少しています。最近では40歳の学年を集めて幹事をお願いするのが困難な状況になってきました。事務局が頑張つてサポートしていますが、コロナ禍で昨年は総会を開催することができませんでした。

高校と統合しました。学園祭も「赤門祭」の名称から変更されたようです。これからは何事もダウンサイジング、少ない人数でやりくりしていくことが要求される時代になったのかと感じます。

どんな人生も生きていく上で人のつながりはとても大切だと感じます。私自身も家族や親類、田舎や学校

東京でも盛んな鹿城会

経費削減に努めました。電子メール等で下の学年にも声かけしました。2000年度の総会は200人を超す出席者で、大成功でした。我々の学年は人数も多く、雑多な職種でしたが、仲が良かったです。よくまあ、毎週集まったもんだと感心します。

当然、そのまま飲み会もするわけです。しかし毎週

な分科会があります。「えすおん会」はおよそ昭和30年生まれ以下の有志一同、若いものに説教をかます、えすかおんちゃんの会です。「鹿城走宴会」は私の同級生を中心としたマラソン同好会です。赤門をあしらったそろいのTシャツを作りました。走ったあとは必ず宴会です。お花見も毎年やっています。私のク

数減り、お隣の鹿島実業

の友達、先輩、いろんな人に助けてもらってやってこられました。上京する鹿島高校卒業生はぜひ、鹿城会に参加してほしいです。鹿島高校に限らず、佐賀の出身だと聞くと、我々は心躍り、なんでも助けてあげたい気持ちになります。そんな先輩たちをぜひ、頼りにしてほしいと平日頃から願っています。

少子化で鹿島高校も生徒

の友達、先輩、いろんな人に助けてもらってやってこられました。上京する鹿島高校卒業生はぜひ、鹿城会に参加してほしいです。鹿島高校に限らず、佐賀の出身だと聞くと、我々は心躍り、なんでも助けてあげたい気持ちになります。そんな先輩たちをぜひ、頼りにしてほしいと平日頃から願っています。